

宮城県感染症発生動向調査情報(第29週)

宮城県【平成26年07月24日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

— 2014.7.14 ~ 7.20 ・ 第29週 —

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市				宮 城 県 (含む仙台市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第26週	第27週	第28週	第29週	
水痘		7 0.70	1 0.20		3 1.00	2 0.40	1 0.50	10 0.38	24 0.41	1,252	○ →	○ →	レ →		
流行性耳下腺炎		2 0.20			5 2.50	4 1.33		14 0.54	25 0.43	381	→	→	→	○	
百日咳											→	→	→		
感染性胃腸炎	14 2.80	28 2.80	15 3.00	12 6.00	17 5.67	10 2.00		126 4.85	222 3.83	13,402	◎ →	◎ →	◎ →	◎	
手足口病	1 0.20	6 0.60				3 0.60	1 0.50	13 0.50	24 0.41	109	→	→	→		
伝染性紅斑	10 2.00	4 0.40	10 2.00	3 1.50	6 2.00	19 3.80		22 0.85	74 1.28	1,499	◎ →	◎ →	◎ →	◎	
突発性発しん	4 0.80	6 0.60	5 1.00	2 1.00	2 0.67	3 0.60		19 0.73	41 0.71	1,097	○ →	◎ →	◎ →	○	
ヘルパンギーナ	1 0.20	11 1.10	3 0.60	25 12.50	8 2.67	1 0.20	2 1.00	18 0.69	69 1.19	151	→	→	○ →	○	
インフルエンザ	1 0.13								1 0.01	28,907	→	→	→		
咽頭結膜熱	1 0.20	7 0.70	3 0.60	1 0.50	1 0.33			13 0.50	26 0.45	436	○ →	○ →	レ →	○	
流行性角結膜炎		3 1.00							3 0.25	85	→	→	→		
急性出血性結膜炎											→	→	→		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9 1.80	10 1.00	4 0.80	2 1.00	5 1.67	17 3.40	2 1.00	52 2.00	101 1.74	3,879	◎ →	◎ →	◎ →	◎	
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→		
無菌性髄膜炎											→	→	→		
マイコプラズマ肺炎			1 1.00	2 2.00	1 1.00	2 2.00	4 4.00	3 0.60	13 1.08	254	→	→	→		
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→		
RSウイルス感染症						2 0.40		10 0.38	12 0.21	359	→	→	→		
拡大 疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		4	1			1	1	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向						
	川崎病							14							
	不明発疹														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)※										52					

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし *男児、女児は6歳未満
2類感染症: 結核
仙南管内 男性1名
気仙沼管内 男性1名
仙台管内 男性2名、女性3名
3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O26)
塩釜管内 男性1名
腸管出血性大腸菌感染症(OUT)
仙南管内 女性1名
4類感染症: レジオネラ症
仙台管内 男性1名
5類感染症: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
仙台管内 女性1名
侵袭性インフルエンザ菌感染症
仙台管内 女性1名
梅毒
石巻管内 男性1名
仙台管内 男性1名

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

今週の感染症のコメント

— 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

- [伝染性紅斑]
仙南、大崎、栗原、登米、石巻管内で警報継続中。
[ヘルパンギーナ]
栗原管内で警報継続中。

【病原体検出情報】

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第27週採取分 (6.30～7.6)	第28週採取分 (7.7～7.13)	第29週採取分 (7.14～7.20)
バラインフルエンザウイルス1型	1件	0件	0件
バラインフルエンザウイルス3型	2件	2件	0件
ヒトメタニューモウイルス	4件	2件	0件
RSウイルス	0件	1件	0件
サトウカゲウイルス	1件	0件	0件

【ヘルパンギーナ】

夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的疾患である。発熱と水疱性発疹が口腔粘膜にみられる。例年第28週から流行がみられ、今週、栗原管内で患者報告数が警報値を超えたことから注意を要する。

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群	0～4歳 (%)	5～9歳 (%)	10～14歳 (%)	15～19歳 (%)	20～29歳 (%)	30～39歳 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70～79歳 (%)	80歳～ (%)	総数 (人)
2014年 第27週		0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
第28週		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	1
第29週		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1

インフルエンザ定点

インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第27週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第17週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(3.41)、鹿児島県(0.27)、山形県(0.21)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は4例と前週と比較して減少し、4都府県から報告があった。**RSウイルス感染症**: 報告数は254例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約82%を占めている。**咽頭結膜熱**: 定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。栃木県(1.54)、長野県(1.39)、北海道(1.27)が多い。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 定点当たり報告数は第23週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。島根県(3.43)、鹿児島県(3.40)、福岡県(3.18)が多い。**感染性胃腸炎**: 定点当たり報告数は第22週以降減少が続いている。大分県(8.22)、愛媛県(7.78)、島根県(7.04)が多い。**水痘**: 定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。宮崎県(2.17)、熊本県(1.82)、愛媛県(1.81)が多い。**手足口病**: 定点当たり報告数は第20週以降増加が続いている。大分県(4.86)、宮崎県(3.14)、福岡県(3.05)が多い。**百日咳**: 定点当たり報告数は2週連続で増加した。沖縄県(0.18)、鳥取県(0.16)、徳島県(0.09)が多い。**ヘルパンギーナ**: 定点当たり報告数は第19週以降増加が続いている。鳥取県(7.16)、宮崎県(5.28)、奈良県(5.03)が多い。**マイコプラズマ肺炎**: 定点当たり報告数は増加した。青森県(1.17)、大分県(0.82)、石川県(0.80)が多い。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)**: 定点当たり報告数は第21週以降減少が続いている。17道府県から35例報告があり、年齢別では0歳(13例)、1～4歳(18例)、5～9歳(2例)、20代(1例)、70歳以上(1例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数